



|            |  |
|------------|--|
| Title      | Synthetic application of $\alpha$ -Isocupreidine-catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction: A general approach to the Phoslactomycins family of antibiotics |
| Author(s)  | Sarkar, Md. Shaheen  |
| Citation   | (2010-09-17)   |
| Issue Date | 2010-09-17   |
| URL        | <a href="http://hdl.handle.net/10069/25133">http://hdl.handle.net/10069/25133</a>  |
| Right      |  |

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:41:56Z

## 論文審査の結果の要旨

|  |                                    |    |                    |
|--|------------------------------------|----|--------------------|
| 報告番号   | 博(医歯薬)甲第 356 号                     | 氏名 | Sarkar MD. Shaheen |
| 学位審査委員   | 主 査 畑山 範<br>副 査 尾野村 治<br>副 査 田中 正一 |    |                    |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価<br/>本研究は、選択的プロテインホスファターゼ 2A 阻害などの生物活性や特異な構造をもつことで医薬開発の研究分野で注目を集めているホスラクトマイシン類天然物の効率的な一般合成法を開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価<br/><math>\beta</math>-イソクプレイジン (<math>\beta</math>-ICD) を触媒とする不斉 Baylis-Hillman 反応に基づき、共通鍵中間体からホストリエシンとホスラクトマイシン B に至る高エナンチオ及び高立体選択的な合成ルートを開発した。よって、ホスラクトマイシン類天然物の一般性をもった新たな合成方法論を開発した点で、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価<br/>上記手法で合成研究を行った結果、ホストリエシンならびにホスラクトマイシン B の形式合成に成功し、今後のホスラクトマイシン類天然物に基づく医薬開発研究への進展が大いに期待される。また、不斉 Baylis-Hillman 反応を活用し、触媒量の不斉源のみを利用するホスラクトマイシン類天然物のエナンチオ選択的合成法の確立に初めて成功した。よって、合成手法における解析と合成研究を推進する上での考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は薬学の有機合成研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p> |                                    |    |                    |